こんな取り組みが進んでいます。

氾濫原エリア、湧水帯エリアでは、シンボルとなる生きものを、多くの人や団体が協力して守り、広げる活動が行われています。

イタセンパラ をシンボルとする取り組み（氾濫原エリア）

イタセンパラは、現在は木曽川のワンドにわずかに生息するのみですが、かつては濃尾平野の川や池などに広く生息していたと考えられます。生息域外で数を増やすための長年の努力が実を結び、現在数が増えつつあります。

① 木曽川や揖斐川で、イタセンパラの生息場所であるワンドを創出しています。
② 多くの方に興味をもっていただくために、学校や公共施設、企業のロビーなどで、飼育・展示を行っています。
③ 川から外に生息地を広げるために、池をつくったり、魚の生息に配慮した米を生産、販売しています。
④ イタセンパラの環境学習会や、密猟防止パトロールが行われています。

ハリヨ をシンボルとする取り組み（湧水帯エリア）

ハリヨは、夏場の水温が 20 度を超えない湧水に恵まれた場所に生息し、岐阜県の西濃地域と滋賀県の東部だけに分布する魚です。

① ハリヨの生息環境を悪化させるオオフサモ（外来種の水草）を、岐阜県や高校生が協力して除去しています。
② 企業が敷地内の湧水池で、ハリヨを保護しています。
③ 住民や高校などによりハリヨが生息する池の環境管理や調査等が行われています。
④ 湧水やハリヨに関するパンフレットの発行や展示などが行われています。

ぜひ、ご参加ください。

例えば、つぎのような参加の方法があります。

○生きものが見られる場所に行ってみる
○観察会や学習会に参加する
○環境に配慮してつくられたお米を購入する
○生息環境を守るための活動に参加する

木曽三川流域生態系ネットワークの詳しい内容や、イベントなどの情報をウェブページに掲載しています。
ぜひ、ご参加ください。

URL：http://www.cbr.mlit.go.jp/kisojyo/

発行：国土交通省 中部地方整備局 木曽川上流河川事務所　　編集：公益財団法人 日本生態系協会

木曽三川流域生態系ネットワーク

みんなで進めよう！
生きものと心豊かに暮らすまちづくり

木曽三川流域生態系ネットワークは、
流域の多くの人や団体が協力して進める、
生きものと共に心豊かに暮らす地域をつくる取り組みです。

上記の活動は一例です。流域の人や団体によって、様々な活動が行われています。

あなたのまちは、どのエリア？

木曽三川流域を、地形や自然の特徴から **扇状地エリア** **氾濫原エリア** **湧水帯エリア** に大きく区分しました。エリアごとに特徴のある生きものが生息・生育しており、自然と関わる地域の文化が見られます。

木曽三川流域生態系ネットワークでは、エリアごとに自然と文化を活かした取り組みを行っていきます。

まず、あなたのまちがどのエリアかを確認してみてください。

３つのエリアの位置と特徴的な環境

扇状地エリア

長良川の砂礫河原

氾濫原エリア

木曽川のワンド

ため池

湧水帯エリア

湧水を水源とする池

湧水を水源とする川

本図はカシミール３Ｄで作成した（http://www.kashmir3d.com/）

扇状地エリア

上流の山から土砂を運んできた川は、平野に出ると流れが緩やかになり、土砂が扇の形に堆積します。こうしてできた地形を扇状地と呼びます。扇状地が広がる「扇状地エリア」の川には砂礫河原（砂や小石の河原）が見られ、その環境をすみかとする生きものが生育・生息しています。砂礫の浅瀬は、アユをはじめ、ウグイやカジカなどの魚が産卵します。アユは一生の間に川から海、海から川を行き来しています。

長良川と木曽川では、海から川に上ってきたアユを捕る伝統的な鵜飼漁が行われ、多くの観光客が訪れています。

長良川鵜飼

カマキリ

カワラバッタ

コアジサシ

カワラサイコ

氾濫原エリア

▶ 氾濫原エリアではイタセンパラをシンボルとした取り組みが進められています。

かつて木曽三川は、濃尾平野を網の目のように流れて、大雨の度に水があふれていました。あふれた水がたまりやすく、地下水位の高い場所を氾濫原と呼びます。かつて氾濫原が広がっていた「氾濫原エリア」には、水田や島畑、水路、ため池等の水辺が見られ、川にはワンドやたまりが見られます。水田や水路には、流れが緩やかな場所に生息する魚や貝が、水田やため池にはトンボやカエルの仲間が生息しています。

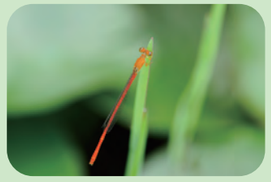
洪水に備えて石垣を高く積み上げた上に、水屋と呼ばれる避難用の家を建てるなど、いろいろな工夫をして生活が営まれていました。また、川魚を食べる文化や砂地で育つ世界一長い守口大根などの独特な食文化が発達してきました。

門前町に川魚を扱う店が多い
千代保稲荷神社

イタセンパラ

イシガイ

ナゴヤダルマガエル



ベニイトトンボ

湧水帯エリア

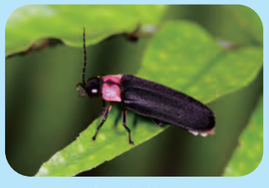
▶ 湧水帯エリアではハリヨをシンボルとした取り組みが進められています。

濃尾平野は、昭和の初め頃までは、自噴帯と呼ばれる水の湧き出しやすい場所が、大垣、蟹江、春日井地方を中心に広く見られました。工業用水としての利用などにより自噴帯の範囲はせまくなりましたが、現在でも、大垣市や養老町、垂井町などで湧水を水源とする池や水路、川を見ることができます。こうした場所を「湧水帯エリア」としました。ここには、ハリヨや、ゲンジボタルといった特徴的な生きものが見られます。

湧水は今も生活用水として使われ、湧水を仕込み水として使った日本酒やラムネ、井戸水で冷やす「水まんじゅう」などの産物もあります。

水を汲みに多くの人が訪れる自噴井

ハリヨ



ゲンジボタル

バイカモ

ホザキノフサモ